



一般財団法人mudef

年次報告書2010



2.目次

I. はじめに

1. ごあいさつ	4
2. 団体概要	5

II. 事業実施状況

1.Project Magoso	7
2.Child AFRICA	8
3.White Ribbon Alliance	8
4. Love is Free Campaign	9
5.SATOYAMA BASKET	10
6.星空の警備隊	11
7.HOPE FOR JAPAN	12
8.物販業務	12

III. 事務局運営状況

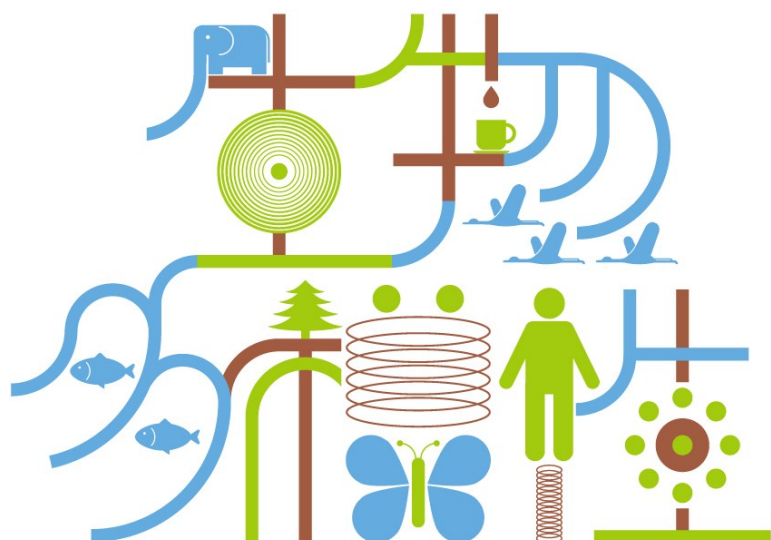
1.法人格取得	14
2.人員配置と運営体制の確立	14
3.事務局広報	14
4.企業の協力状況	15
5.収支報告	15



I .はじめに

1.ごあいさつ

2.団体概要



General
Incorporated
Foundation
mundef

1.ごあいさつ

一般財団法人mundef
事務局長 長島美紀

「音楽とARTが世界をデザインする」ことを合言葉に一般財団法人mundefが誕生してから、1年を迎えました。

ちょうど2011年度にどのような活動をするのか、検討していた2011年3月11日、日本は観測史上最大となったM9.0の地震が発生しました。東日本大震災では、私たちは多くの命がなす術もなく奪われ、当たり前になっていた生活が破壊されてしまう恐ろしさを目の当たりにしました。

mundefは「私たちにできることを」との思いから、HOPE FOR JAPANプロジェクトを開始、パートナー団体を通じた支援活動を展開しました。復興まで10年、20年という長い期間がかかることが予想される中で、少しでも被災された方に寄り添い、サポートできる体制を続けたいと、今なお「できること」に対する問いかけを行っています。

振り返るとmundefが生まれてから1年余り、mundefの前身であるChild AFRICAプロジェクトで実施していたLove is Free Campaignやマゴソスクールの支援活動に加えて、新たに生物多様性をテーマにした「SATOYAMA BASKET」事業、そして理事の国連名

誉大使の業務サポートなど、様々な活動を実施してきました。2015年までに達成すべき国際社会の約束、「ミレニアム開発目標 (MDGs)」が掲げる8つのテーマに基づくプロジェクト運営は、世界の課題に対して、私たちなりに「できること」を模索するものとなりました。

今回お届けする年次報告書は、その、私たち自身の問いかけに対する、私たちなりの回答となっています。まだまだ未熟なところもありますが、次年度、そしてこれから、さらなる活動を展開していきたいと考えております。

今後ともmundefの活動にご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

長島美紀

2.団体概要

一般財団法人mudef(ミューデフ)は、「Music +Design」が組み合わさってできた言葉。「音楽とART」を通じて、地球規模の課題を解決するために設立されました。

mudefの活動の軸は、「ミレニアム開発目標(MDGs)」。

MDGsとは、2000年、189の国の人々が同意した、21世紀の国際社会が真っ先に取り組むべき8つの課題。

2015年までに国際社会が達成すべき8つの目標を掲げています。



- GOAL1 貧困と飢えの撲滅
- GOAL2 初等教育の完全な普及
- GOAL3 男女平等の推進と女性の地位向上
- GOAL4 子どもの死亡率の削減
- GOAL5 妊産婦の健康改善
- GOAL6 マラリアなど感染症の蔓延を防止
- GOAL7 環境の持続可能性の確保
- GOAL8 開発のための世界的なパートナーシップ構築

MUDEFはMDGS(ミレニアム開発目標)を軸に事業を展開しています。





II.事業実施状況

- 1.Project Magoso
- 2.Child AFRICA
- 3.White Ribbon Alliance
- 4.Love is Free Campaign
- 5.SATOYAMA BASKET
- 6.星空の警備隊
7. HOPE FOR JAPAN
- 8.物販業務



1. Project Magoso

<http://www.mudef.net/magoso/>



ケニアの首都ナイロビにある、アフリカでも最大規模のスラム、キベラスラムにあるマゴソスクールを応援するプロジェクト。mudef設立前に、前身のChild AFRICAからの拠出を元に、マゴソスクールの運営に携わる早川千晶氏、マゴソスクール運営者たちとの協議の上、2つの活動を実施しています。

ジュンバ・ラ・ワト子どもの家 改修工事費

マイシャ・ヤ・ラハ基金とケニアのミリティーニ村の人々が共同で運営している、「ジュンバ・ラ・ワト子どもの家」の改修を実施しました。2歳から17歳までの子ども32名、寮母2名、教員1名が暮らしている子どもの家は、児童養護施設運営に必要な条件を満たしていないことを理由に、ケニア政府より閉鎖の通告を受けました。そこで3回の工事を通じて、建物の状態、広さ、トイレの状態、水道、電気、ベッドや寝具の状態、食料の保管場所、日中と夜

間の警備員の雇用、台所の設備等を改修。コンクリートで補強された子どもの家は、現在では、地元の集会場所としても活用されています。



提供: アマニ・ヤ・アフリカ

マゴソスクール出身の子どもたちのセカンダリースクール奨学金の拠出

マゴソスクール卒業生の中でも、成績優秀者13名へセカンダリースクール進学のための奨学金を拠出。総額 456,601ケニアシリング(380,526円相当)を支援しました。

ケニアでは、8年間の小学校を終えて中学校に進学するために、小学校教育課程修了試験(KCPE)を受けます。中等教育は4年間で、大学へ進学する場合、4年生は11月に行なわれるケニア中等教育修了試験

(KCSE)を受験する必要があります。試験に合格した生徒だけが、大学への入学が認められます。国立大学の入学生の枠は8,000人と制限されているため、非常に狭き門となっています。

卒業年	出身校	Nickname	氏名	進学校	学年	支援額 (KES)
2007年	MAGOSO	ジョージ	Ochieng George Ouma	Oi Kejuado High	Forn4	23,727
2007年	MAGOSO	オビリ	Okeyo Victor Obiri	Oi Kejuado High	Forn4	27,727
2007年	MAGOSO	オドンゴ	Odongo Collins Owino	Oi Kejuado High	Forn3	25,797
2007年	JUMBAS	インバラ	Valary Everlyn Imbala	Kaani Lions Sec	Forn4	27,827
2007年	MAGOSO	ナンシー	Okello Nancy Alooh	Kaani Lions Sec	Forn4	27,827
2008年	JUMBAS	トニー	Mwangi Syrus Antony	Oi Kejuado High	Forn3	44,710
2008年	JUMBAS	サミュエル	Sese Samuel Odhiambo	Oi Kejuado High	Forn3	37,317
2008年	MAGOSO	スティーブン	Steven Ochieng	Oi Kejuado High	Forn3	23,117
2008年	MAGOSO	ザブロン	Zablon Owino Ooko	Oi Kejuado High	Forn3	44,173
2008年	JUMBAS	アグネス	Simbiri Agnes Awuor	Kaani Lions Sec	Forn3	26,127
2008年	MAGOSO	バイオレット	Okoth Violet Akinyi	Kaani Lions Sec	Forn3	26,127
2008年	JUMBAS	エミテワ	Inyamboko Sarah Emitewa	Kaani Lions Sec	Forn3	42,788
2009年	St. Georges	ジョセフ	Too Joseph Kipchumba	Kaani Lions Sec	Forn2	79,337

スティーブン(Mwangi Syrus Antony)

mudefが今年から支援を始めたキベラスラム生まれのスティーブンは、1994年生まれの19歳。2008年にマゴソスクールを卒業し、現在はオイ・ケジュアド高校のForm3(中等教育の3年目)に通っています。たくさんの兄弟姉妹の末っ子で、笑顔が素敵な男の子です。



エミテワ(Inyamboko Sarah Emitewa)



エミテワは、セカンダリースクール進学第1期生で、2011年の1月にForm4に進級しました！2007年にMISIAが初めてアフリカを訪れた際に、彼女と出会ったことから、このProject Magosoは始まっています。歌や踊りが大好きで、将来はお医者さんか弁護士さんになりたいという夢を持っています。



2.Child AFRICA

<http://mudef.net/contents/childafrica.html>



Child AFRICAは、mudef設立に先駆けて世界中の子どもたちが教育を受けられる環境づくりを目的に、2008年8月からスタートしたプロジェクトです。一般財団法人mudefの設立に伴い、1プロジェクトとしてmudefに吸収されました。現在Child AFRICAとしてアフリカの「今」を伝える「School Caravan」を実施しています。

SCHOOL CARAVAN

途上国の子どもたちの置かれた現状を伝える、イベントリレー企画。大学生を対象に自主イベントを実施してもらい、全国にイベントの輪が広がっていく様子を、ウェブサイトで紹介しています。

mudefでは、途上国の子どもたちの現状を、アフリカで撮影された写真とメッセージで伝える展示物の貸し出しを実施。これまでに龍谷大学や東京外国語大学で開催されました。

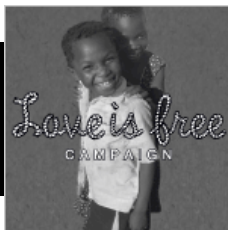


3.WHITE RIBBON ALLIANCE

<http://www.undp.or.jp/mdgsafrica/category/goal5/>

2008年からMISIAが参加している、開発途上国の妊産婦と赤ちゃんの健康と命を守る国際的なキャンペーン。

世界のリーダーたちに向けて、母子保健の大切さを訴える手紙の署名などを実施しています。



4. Love is Free Campaign

<http://loveisfree.mudef.net/>



2009年7月よりmudef前身である「Child AFRICA」プロジェクトの一環として実施していた、マラウイのエイズ孤児センター「コンソル・ホームズ・オルファン・ケア」の子どもをサポートする取り組み。寄付金などを元に、2010年2月に第1回配布として500張を配布しました。2011年夏から第2弾配布を実施します。

蚊帳の配布事業

現地工場より住友化学のマラリア予防に効果を上
げている防虫蚊帳「オリセツト® ネット」2000張
を購入、現地で配布する準備を行いました。

うち1000張は住友化学株式会社様によるマッチン

グ寄付により実現。

マラウイの住宅事情を鑑み、吊るす箇所が1か所で
済む円錐タイプの蚊帳を購入します。配布は2011
年7月から開始予定です。



エリナの家への支援

キャンペーン開始のきっかけに、2008年11月に両
親をエイズ関連疾患で亡くしお祖母さんと二人で
暮らす少女エリナが存在があります。エリナの家
を訪れ、その衛生状況への衝撃が、Love is Free
Campaignの実施につながりました。

そのエリナの家は老朽化により崩壊。現在空き家
に住んでいるエリナを支援するため、mudefでは
コンソル・ホームズと協議の上、センター近くで
家を建設しています。

情報発信

マラリアやマラウイ、支援先のコンソルホームズ
に関する情報や関連小話を「LFCサポーター通
信」として発信、サポーター登録した方へご案内

しました。mudef設立以前より発行されていたこ
の通信は、2010年度には第18号～30号まで発行さ
れました。

その他Love is Free Campaignの趣旨にご賛同いただいた方による、
国内での寄付キャンペーンが実施されました。

「星空のショーコラ」第二弾

2009年度から期間限定で販売
を開始した、価格の10%がキャン
ペーンへの寄付となる
vanilla sugar社製のチョコ
レート第二弾が販売。

・商品名：星空のショーコラ

- ・販売期間：2011年1月14日
～6月30日
- ・価格：368円（税込）
- ・味：コーヒー味／紅茶味
- ・販売：店頭および通販サイ
ト、特別催事場等。

バザール、ソニー、共同キャンペーン

ソーシャルメディアによる伝
播とクーポン共同購入サイト
「BAZARRING」を活用し、期間
限定で寄付を募り、収益をご
寄付いただきました。

- ・サイト [http://
www.bazaar-japan.com/bazarring/](http://www.bazaar-japan.com/bazarring/)
- ・実施期間：2010年12月16日

- ～12月20日
- ・寄付金額：一口500円
- ・出品物：「Dream Goal
2010」記念バンダナ



マラリアとは

ハマダラ蚊が原因で発生するマラリア
は、世界三大感染症の1つ。激しい高熱
と合併症により、重篤な場合には死に
至ります。世界100ヶ国以上の国で流行
しており、全世界で、年間100万人以上
の死亡者があります。□

死亡する人の多くが、体力の弱い、5歳
未満の子ども。また、妊産婦が感染する
と、流産の危険や、出生時の体重低下
が起こる可能性もあります。またマラリ
アの感染により、働き盛りの成人が働け
なくなることで、経済活動の停滞も引き
起こされています。

コンソル・ホームズ・オルファン・ケアとは

マラウイ中部に位置するナミテで活動する「コンソル・ホームズ・オルファン・ケア」。エイズと共に生きる人々（PLWHAs: People living with AIDS）を対象にした在宅ケアと、エイズなどで片親または両親を失った子どもたちへの支援を実施。

約600名の現地ボランティアが協力して、7歳から18歳の子ども約14,000名の支援を行っています。



5.SATOYAMA BASKET

<http://satoyamabasket.net/>

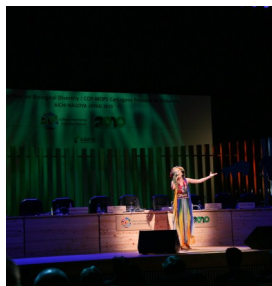


2010年3月、mudef理事であるMISIAは国連事務総長より生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）名誉大使に任命。mudefはMISIAの名誉大使の活動をサポートするほか、生物多様性に関連したイベントを企画しました。普及啓発活動は、国連や環境省など関係機関より広く評価されています。

COP10名誉大使・MISIAの補佐

mudef理事である、COP10名誉大使MISIAの活動をサポート。9月のNYでの記者会見、10月のCOP10開会式でのCOP10オフィシャルソング「LIFE IN HARMONY」の披露など、大使の活動は国内外より高く評価されました。

（写真上：国連での記者会見、写真下左：COP10開会式、写真下右：COP10記者会見）



生物多様性×MISIAプロジェクト（環境省） 生物多様性MY行動宣言・かざぐるまキャンペーン

かざぐるまに参加者のメッセージと「ありがとう」の気持ちをのせて、未来へとつなげていくイベントを全国各地で開催しました。生物多様性のためにできることを「宣言」した紙でかざぐるまを作り、全国に輪を広げました。2011年1月10日の終了時まで集められた3480個のかざぐるまは、東京タワーで行われた「すばらしき地球の仲間たちin東京タワー」で展示されました。



対州馬（たいしゅうば） 名前コンテスト

対馬を訪問した際に訪れた目保呂（めぼろ）ダム馬事公園で、在来種である対州馬の赤ちゃんが誕生したことを記念して、mudefと対馬市が共同で赤ちゃんの名前を募集。最終候補から特別審査員MISIAが名前を決定しました。

募集期間：2010年6月12日～7月15日

名前：奏（かなで）



生命の共存・調和のシンボルとして、素晴らしいハーモニーを奏でて欲しい、幸せを奏でて欲しい、そんな思いで命名させて頂きました。
（MISIAコメントより一部抜粋）

国際生物多様性年企画 「すばらしき地球の仲間たちIN東京タワー」

粘土造形作家の宮川アジュ氏の絶滅動物・絶滅危惧種の実物大の模型の展示やMISIAの視察の紹介、「自分でできること」としてのかざぐるまキャンペーンの紹介やかざぐるま作り等が行われました。

- ・期間：2010年9月25日～2011年1月10日
- ・会場：東京タワー
- ・主催：シミズオクト、東京タワー、チケットぴあ、mudef



DOODLE 4 GOOGLE審査参加

Google が主催する、デザインコンテスト。2010年に行われた第2回コンテストのテーマは、「地球のなかまたち」。

一般投票と特別審査員等による最終審査委員会の審査で、部門最優秀作品4点、その中からグランプリ受賞作品1点が選ばれました。mudefでは、理事の信藤三雄氏が特別審査員に参加しました。

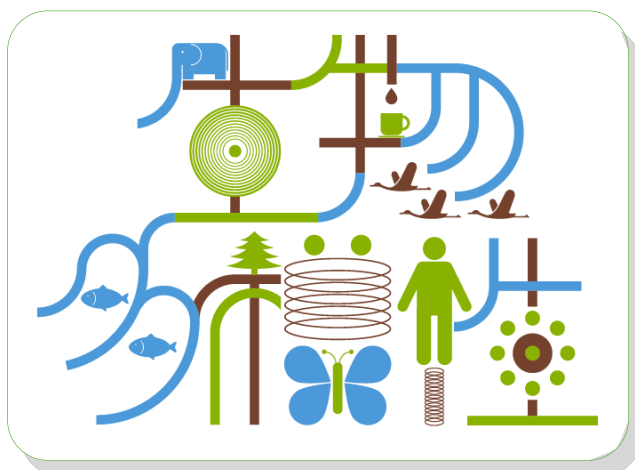
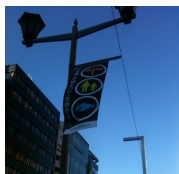


第38回日本橋・京橋まつり “大江戸活粋パレード”

日本橋が2011年に現在の橋の姿になって100周年を迎えることを記念し行われた様々な行事の1つ、第38回日本橋・京橋まつり“大江戸活粋パレード”と連動。

トークイベントや信藤三雄デザインの街路灯パナーの掲出、MISIAによる記念ラ

イヴ、売上の一部が国連の生物多様性活動に寄付される“SATOYAMA BASKET BAND”の限定販売等が行われました。

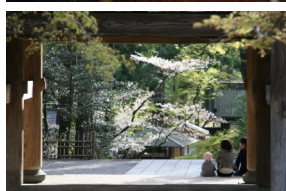
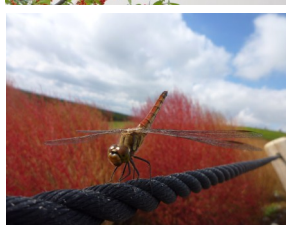


「生物多様性フォトコンテスト～LIFE IN HARMONYに思いをのせて～」

MISIAの楽曲「LIFE IN HARMONY」がCOP10公式ソングになったことを記念して、生物多様性をテーマに写真コンテストを開催。100点を超える作品の中から最終的に大賞1点、審査員賞7点、優秀賞29点の合計37点が入賞しました。

受賞作は楽曲に乗せて映像化され、12月17日に石川県で開催された環境映像祭で発表されました。

- * 募集期間:2010年10月18日～11月14日
- * 協力:生物多様性条約事務局、国連広報センター、国連大学
- * 特別協力:生物多様性XMISIAプロジェクト(環境省)
- * 特別審査員:MISIA
- * 審査員:アフメッド・ジョグラフィ(CBD事務局長)/今森光彦(写真家、地球いきもの応援団メンバー)/黒田大三郎(環境省参与)/信藤三雄(アートディレクター)/武内和彦(国連大学副学長)/山下真理



MISIAの森プロジェクト

石川県森林公園の一部をMISIAの森として、同地域の森の再生事業とアートプロジェクトを通じた生物多様性の普及啓発を行うことを発表しました。2011年度から始まるプロジェクトでは、森の保全活動やアートプロジェクトを通じて、より多くの方に生物多様性を感じていただける「場」作りを実施します。

- ・期間:2011年5月22日～2016年3月31日
- ・協力:石川県、津幡町、金沢大学



6. 星空の警備隊

<http://hoshizora.mudef.net/>



ウルトラマン

日本のみならず世界にその名を知られ、高い人気を誇る正義のヒーロー。

2009年9月に、Child AFRICAのサポーター、ウルトラマンとMISIAで結成した星空の警備隊は、MDGsの普及啓発など子どもたちに世界規模の問題をわかりやすく伝えることを目的にしています。現在、星空の警備隊のストーリー作りと企画概要を作成中です。



7.HOPE FOR JAPAN

<http://mudef.net/hopeforjapan/>

3月11日に発生した東日本大震災を受けて、翌3月12日にメッセージを発信、14日には「HOPE FOR JAPAN」プロジェクトを始めました。

募金活動

3月14日よりオンライン上で寄付を呼びかけました。4月8日からはクレジットカード決済も導入することで、より広く募金を呼びかけました。募金は現地で被災者支援にあたるNGO団体へ寄付されるほか、mudef独自の支援活動に充てられます。

2010年末現在でmudefはパートナー団体へ総額48,422,358円寄付を行ったほか物資提供等実施しました。

メッセージの募集

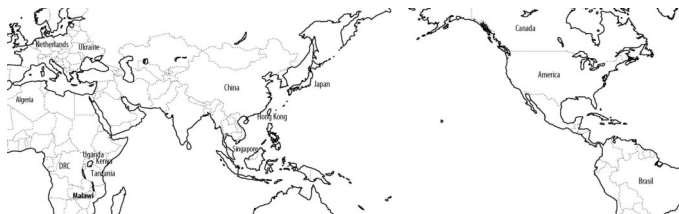
HOPE FOR JAPANは、被災者へ向けたメッセージを日本国内外より広く募集。現在、世界15カ国・地域よりメッセージを受理しました。

以下の方からもメッセージが届きました（敬称略）。

- MISIA
- MURO (DJ/PRODUCER)
- TERU (GLAY)
- 野宮真貴（ミュージシャン）
- 信藤三雄
- David Foster（音楽プロデューサー）
- Raul Midon（シンガー）
- 久保田利伸（ミュージシャン）
- Ahmed Djoghlaif（国連生物多様性条約事務局長）
- KASONGO JEAN CLAUDE WA KANEMA（ミュージシャン）
- DAUGLAS WAKIHURI（ソウルオリンピックマラソン銀メダリスト）

HOPE FOR JAPANパートナー団体

- * あしなが育英会：震災で親を失った0歳から大学院生への「特別一時金」の支給や心のケアを行う
- * 特定非営利活動法人アムダ：宮城県仙台市、岩手県釜石市・上閉伊郡大槌町等で巡回診療を展開する
- * 特定非営利活動法人国境なき医師団日本：避難所の高齢者に、慢性疾患への治療を提供する
- * 特定非営利活動法人ジェン：被害が深刻な宮城県石巻市で各家庭への緊急物資提供や避難所での炊き出しなどを行っている
- * 公益社団法人Civic Force（緊急即応チーム）：宮城県南三陸町を中心に物資輸送や大工などの専門家派遣
- * 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン：宮城県気仙沼市、南三陸町、岩手県陸前高田市、大船渡市で緊急支援物資を配給



写真提供：ジェン

8.物販業務



信藤三雄デザインによるリストバンドを作成、販売しました。リストバンド1個の売り上げにつき50円が国連生物多様性条約事務局を通じて、生物多様性保全活動に寄付されるチャリティ商品となりました。

The background image shows a scene of significant destruction. In the foreground, there is a large pile of rubble, including concrete blocks and debris. To the right, a silver car is visible, with its front end heavily damaged and crumpled. In the background, several buildings are visible; some appear to be multi-story structures, and one has a cross on its roof. The sky is overcast and grey. The overall tone is somber and depicts the aftermath of a disaster.

Ⅲ.事務局運営状況

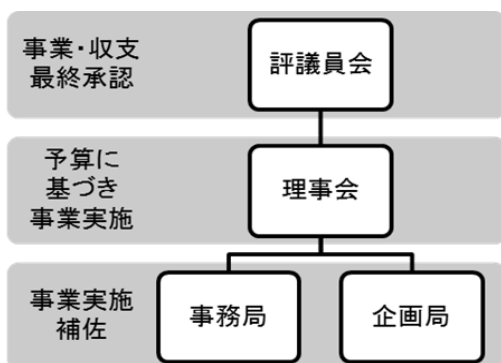
- 1.法人格取得
- 2.人員配置と運営体制の確立
- 3.事務局広報
- 4.企業の協力状況
- 5.収支報告

1.法人格取得

2010年5月21日付で一般財団法人mudefとして、法人格を取得。また、10月20日をもって「一般財団法人mudef」名称及びロゴの商標の国内登録（第41類）が完了しました。

※第41類役務（サービス）：各種学校・セミナー、イベントの運営、運動・娯楽施設の提供、各種物品の貸与、翻訳、電子出版物の提供等

2.人員配置と体制の確立



法人設立後、mudefでは事務局が事業を運営し、事業計画などを企画局と連携して策定しています。

事業の最終的な決定に携わる理事会は、設立後、2010年度には2回開催されました。

2010年12月7日 第1回理事会

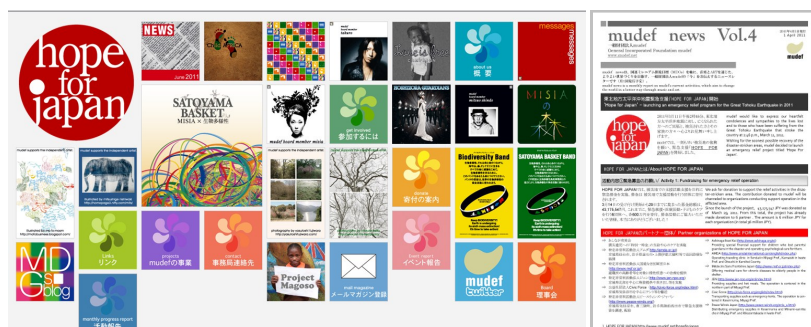
2011年4月11日 第2回理事会

3.事務局広報

mudefは設立以来、広報活動にも力を入れてきました。信藤三雄のディレクションによるサイトの運営による情報の発信のほか、時宜に応じたプレスリリースや月に二回のメールマガジンの発行、ツイッターを通じたより広範な情報提供も行っています。そのほか、専門家によるMDGsの解説によるエッセイをブログ形式で掲載するなど、様々な形で、mudefの活動やMDGsを知ってもらう広報活動を実施しています。

また、2010年12月からは月に一度、「mudef news」を発行、各事業の「今」を伝えています。

MISIAの名誉大使の活動をまとめたPRESS KITは国連生物多様性条約事務局にも提出し、公式の文書として採用されました（国連生物多様性条約事務局ウェブサイトで見ることが可能です）



左：mudefウェブサイト
右：mudef news

4.企業の協力状況

mudefの活動は多くの企業、団体の方々に支えられています。

- ・ 国立天文台（2009年～）簡易の天体望遠鏡など提供していただきました。アフリカで子どもたちにプレゼントさせていただいています。
- ・ 株式会社SONY（2010年12月）Love is Free Campaignへの寄付として、寄付キャンペーンを実施していただきました。
- ・ 株式会社円谷プロダクション（2009年～）星空の警備隊商品化のライセンスの特別設定や、アフリカ視察の際のおもちゃの提供などをいただきました。
- ・ Think the Earthプロジェクト（2010年～）星空の警備隊の企画の立案、運営にご協力いただいています。
- ・ 株式会社dmp（2008年～）mudefのウェブサイトの制作、運営サポートを実施。
- ・ 株式会社vanilla beans（2009年～）Love is Free Campaignに賛同し、「星空のショーコラ」を期間限定で販売。収益の1部をご寄付いただいています。
- ・ 株式会社住友化学（2010年～）Love is Free Campaignに賛同、自社製品「オリセツト(R)ネット」をご提供いただきました。

（50音順・敬称略）

5.収支報告(2010/5/21-2011/4/30)

単位: 千円

一般正味財産増減の部	経常収入	公益目的事業	一般寄付	2,752
		収益事業	CHILD AFRICAからの引継ぎ	4,517
			HOPE FOR JAPAN	48,530
			指定寄付(LFC)	163
			指定寄付(SATOYAMA BASKET)	167
			物品販売	2,295
	雑収益	取材・原稿料・講演料	80	
	預金利息	1		
	計		58,505	
	経常支出	公益目的事業費		50,512
収益事業事業費			1,983	
管理費			2,249	
計		54,744		
収支差額			3,761	
経常外費用		雑損失	3	
法人税等			129	
一般正味財産収支差額			3,629	
指定正味の財産増減	指定正味財産	指定寄付金	基本財産	3,000
		HOPE FOR JAPAN	51,334	
		指定寄付(LFC)	3,990	
		指定寄付(SATOYAMA BASKET)	167	
		国連への寄付	470	
			58,961	
指定解除一般へ振替	HOPE(震災義捐金)	48,860		
指定正味財産増減差額			10,101	
正味財産期末残高			13,730	



2011年8月1日発行

執筆・編集:mudef事務局